

関東支部

第4回提案競技

「美しくまちをつくる、 むらをつくる」

「美しい」「美しく」とは？「人に対し魅力的であるということ、人を惹きつける、行ってみたいくなる、そこに居たくなる、住みたいくなるような所。単に何となくきれいである。というのではなく、きれいであって、健康で、活気がある、または気持ちがかゆむ、落ち着くなど、様々な要素をもたらさなければならない。」

美しい環境・景観は与えられるものではない。市民・住民の不断の努力によってつくり上げられたものである。「美しいまちをつくる、むらをつくる」というテーマは、市民の側に主体的に美しいまちむらをつくらうという意識をもってもらいたいという意味を込めている。市民にそのような意識をもってもらうためには、デザインによってまちやむらほどのように美しくつくられるかが示されなければならない。これを示し得るのは、建築・都市デザイナー、建築家、建築士などのデザインの専門家、及びそれを目指す学生諸君であろう。さらにこのような意識を子供の時から育てるために、市民や子供たちにもこのイベントに参加してもらい、美しいまちづくりを考える楽しさを味わってもらいたい。

本提案競技は、以上の主旨のように、デザインの持つ力、重要性を社会に対して示す場を設けようとするもので、建築・都市デザイナー、建築家、建築士、学生を対象にした美しいまちづくりむらづくりのデザインコンペティションおよび市民を対象にした絵手紙コンクール、小中学生を対象にした絵画コンクールを内容とする、関東支部の継続事業の第4回目である。ふるって参加をお願いしたい。

〈主催〉 日本建築学会関東支部

〈共催〉 埼玉県秩父市、秩父市教育委員会、日本建築学会関東支部埼玉支所

〈後援〉 埼玉県、(株)秩父開発機構、ちちぶまちづくり工房、(社)埼玉建築士会、(社)埼玉県建築士事務所協会、(財)秩父地域地場産業振興センター、秩父観光協会、(有)道の駅ちちぶ、(社)埼玉建築設計監理協会、(社)日本建築家協会JIA埼玉

応募規定：支部会員の部

1. 課題「美しくまちをつくるむらをつくる」

魅力的なまちづくり、むらづくりの計画案を提案して下さい。昨年市制施行50周年を迎えた埼玉県秩父市は、周辺の美しい自然環境はもとより、まちなかにも様々な歴史的、文化的資産が数多く潜んでいますので、これらの資産を活かしたまちづくりの提案を募集します。必ずしも提案の実現性にはこだわりませんが、今後の秩父市のまちづくりに参考となるような、説得力のある提案を望みます。

2. 対象地の概要とテーマ

1) 埼玉県秩父市の概要

秩父市は埼玉県西部に位置し、市の周辺は南にそびえる武甲山を始めとする秩父山地とそれらに囲まれた盆地からなっています。西と南の都県境に2,000m級の山が連なり、東と北に1,000m以下の山々が続き、その山間を縫って南西から北東方向に荒川及びその支流が流れており、特に市の中心部周辺は荒川によって形成された河岸段丘となっています。

市の面積は134.03平方kmで、かつて大宮郷とよばれた旧市街地に周辺地域を加え、現在の市域を形成しています。人口総数は平成14年4月1日現在で60,187人、10年間で約1,400人減と緩やかに減少を続けています。広大な土地を有する周辺地域では、住宅の建設が進み人口が増加傾向にありますが、旧市街地では10年間で約2,800人と減少が著しくなっています。特に近年、工場の閉鎖により大量の転出があり、空洞化がより進みつつあります。

秩父地域の歴史は古く、縄文・弥生時代の遺跡、和同開珎なども分布しています。近世には、周辺の自然を活かして木材や絹織物が盛んとなり、明治に入ると絹織物の機械化により繊維産業が発展し、さらに武甲山からの石灰岩の採掘が始まり大正時代には秩父鉄道が秩父まで開通してセメント産業も発展し、昭和初期にそれら地場産業は隆盛をきわめました。近年では、どの産業も当時の隆盛を失っており、都心から80km圏内にあり西武鉄道の特急が中心部へ乗り入れていることで、観光産業への期待が高まっています。

2) テーマ：のんびり一日、癒しの舞台づくり

— 秩父の美しいまちなか空間を求めて

市民をはじめ周辺や都市部から訪れる人たちが、のんびり一日を過ごし元気になるようなそんな秩父のまちなか空間を提案して下さい。対象地は、「旧消防署跡地、秩父神社周辺」、「(仮称)秩父ふるさと館、旧秩父往還周辺」、「秩父駅東側、道の駅周辺」、「西武秩父駅周辺」、「羊山周辺」の5地区とし、その全ての地区を利用した提案でも、そのうちのいくつかの地区に対する個別の提案でも構いません。ただし、その提案がまちなか全体の再生、活性化につながるような提案を望みます。

秩父の人たちは、秩父銘仙を生み、ほぐし捺染という独自の染めと織の技法を考案し、海外に輸出するまで地域全体でそれを育てました。秩父銘仙には養蚕、製糸、型紙、捺染、織りと一連の工程がおよそ30ありそれら全てを秩父地域で行っていたため、繊維産業が衰退した今でもまちなかには建物

などの資産が残っています。そんなまちなかの歴史的、文化的資産をおおいに活用し、魅力的で美しいまちなか空間の提案を期待します。

3. 要求図面等

1) A1判用紙(594×841mm)1枚以内に提案をまとめる。
2) 表現方法は自由。ただし、パネル、ボードは使用不可。
3) 対象の町全体のマスタープランや部分の設計などを図面、模型、写真で表現しても良い。必須の項目や図面は定めないので資料等から判断して自由に課題を設定すること。質疑応答は行わない。

4. 応募資格・応募点数

代表者(作品提出時までの入会手続き者を含む)は、関東支部の所属の個人会員もしくは準会員とする(共同制作者は会員外でも可)。

5. 応募登録

応募登録申込書に、必要事項を記入し2002年8月12日(月)までに郵送のこと(消印有効)。登録料(郵便為替)と資料返送用封筒(A4判封筒に宛先を記入。360円分の切手を貼付)を同封すること。登録者には、秩父市に関する資料を送付する。登録料2,000円は、郵便為替とし、受取人に日本建築学会関東支部と記入して同封のこと。

6. 作品提出

関東支部事務局宛て、郵送または宅配便により9月17日(火)までに送付する(消印有効。審査会までに到着したものは受け付ける)。直接持参は不可。応募登録用紙に必要事項を記入し、封筒に密封して作品の裏にはがせるように張りつける。作品中には、作成者が推測出来るマーク等を表示しない。

7. 全体スケジュール

・応募登録受付：7月1日(月)～8月12日(月)

・地元説明会：7月20日(土)13:00～

会場は秩父宮記念市民会館を予定。秩父市職員及びちちぶまちづくり工房メンバーが現地を案内し説明する。当日説明会後都市計画専門研究委員会主催のワレシンプोजウムを開催する。

・応募作品受付：9月2日(月)～9月17日(火)

・1次審査：2002年9月下旬ごろ入賞者には通知するとともに、『建築雑誌』と建築学会ホームページ上で公表する。

・2次審査(公開)及び入賞発表、表彰式秩父地域地場産業振興センター：秩父市にて2002年10月12日(土)に開催します。入賞者は参加してください。会場は、秩父地域地場産業振興センターを予定。

・入賞作品展示会秩父地域地場産業振興センター(予定)にて2002年10月中旬ごろ、その後さいたま市にて2002年10月下旬ごろ開催します。

8. 審査委員会

委員長：佐藤 滋(早稲田大学教授)

委員：内田 全一(秩父市長)

根岸 俊雄(根岸俊雄都市建築設計事務所)

加藤 仁美(東海大学助教授)

市川 毅(日本建築学会埼玉支所長)

9. 賞

・最優秀賞 1点(賞状、副賞30万円)

・優秀賞 3点(賞状、副賞5万円)

・秩父市長賞 3点(賞状+商品券2万円分)ほか

10. 著作権

応募作品に関する著作権は各応募者に帰属しますが、主催者は本設計競技の主旨に照らして、応募作品の公表等をする権利を使用することができるものとします。

11. 作品の返却

返却を希望する方は、支部事務所までお越し下さい。表形式より3カ月を経過したものは処分致します。

応募規定：一般の部

1)は一般の部、2)は小中学生の部

1. 課題「伝えたい、育てたい秩父の魅力、美しさ」

- 1)未来の子供達に伝えたい秩父の魅力ー絵手紙コンクール
- 2)私たちが暮らす美しいちちぶの姿ー絵画コンクール

2. 提出作品

- 1)官製はがきまたは同サイズの紙
- 2)四つ切り画用紙(380mm×540mm)以内1枚。画材として油絵、水彩画、パステル画、クレヨン画、色鉛筆などのほか、技法としてコラージュや半立体的表現(厚さ10mm程度まで)も可とします。ただし、壁面掲示に耐えられるもの。

3. 応募資格

- 1)特になし。小中学生、高校生、大学生も含む。
- 2)秩父市内の小学校、中学校に通う児童・生徒とする。

4. 応募登録

登録の必要はありません。

5. 作品の提出方法

- 1)提出先:秩父市企画課
作品の裏に住所・氏名・年令・電話番号を記入のこと。
- 2)提出先:秩父市教育委員会
作品の裏に学校名・学年・氏名(ふりがな)を記入して下さい。

6. 全体スケジュール

- ・応募作品受付:9月2日(月)～9月17日(火)
- ・入賞者の発表:10月上旬ごろ
 - 1)入賞者には通知する。
 - 2)応募者の学校に通知する。
- ・表形式、作品発表会:10月12日(土)に秩父地域地場産業振興センターにて開催します。
- ・入賞作品展示会:秩父市本町ギャラリー(予定)にて2002年10月中旬頃、その後さいたま市にて2002年10月下旬頃

7. 審査委員会(一般の部と小中学生の部で共通)

地元美術家、市内小中学校美術教諭、絵手紙教室講師、市内日本建築学会員など

8. 賞(一般の部、小中学生の部)

- 1)一般の部
 - ・優秀賞 10点(賞状と2,000円の図書券)
 - ・特別賞 5点(賞状と5,000円の図書券)
 - ・秩父市長賞 1点(賞状と10,000円の図書券)ほか
- 2)小中学生の部(小学生/中学生以上)

- ・優秀賞 40点/20点(賞状と記念品)
- ・特別賞 6点/3点(賞状と5,000円の図書券)
- ・秩父市長賞 1点/1点(賞状と記念品)
- ・秩父市教育長賞 1点/1点(賞状と記念品)ほか

9. 著作権

応募作品に関する著作権は各応募者に帰属しますが、主催者は本設計競技の主旨に照らして、応募作品の公表等をする権利を使用することができるものとします。

10. 作品の返却

- 1)返却を希望する方は、今年中に秩父市役所企画課までお越しください。
- 2)表形式終了後に学校を通して返却します。

関連開催事業

第7回リレー見学会シンポジウム/新しい街づくり見てまわり「秩父のまちづくり/市民活動が生むパートナーシップのまちづくり」

〈主催〉 関東支部・都市計画専門研究委員会
 〈後援〉 埼玉県秩父市、(株)秩父開発機構、ちちぶまちづくり工房(社)埼玉建築士会、(社)埼玉県建築士事務所協会(社)埼玉建築設計監理協会

期 日 7月20日(土)
 内 容 13:00～15:00 現地見学
 15:00～17:00 懇談シンポジウム 会場:秩父宮記念市民会館
 17:30～18:30 ナイトバザール(夏祭り)見学後、解散

集 合 秩父宮記念市民会館
 案 内 ちちぶまちづくり工房、観光ボランティアガイド。「美しくまちをつくる、むらをつくる」提案競技の地元説明会と合同。

パネリスト(予定) 司会進行:市川 均(アーキネットデザイン)
 佐藤 滋(早稲田大学教授)
 根岸 俊雄(根岸俊雄都市建築設計事務所)
 高橋 庫治(高橋組・(社)埼玉建築士会)
 高橋 兼夫(秩父市役所)
 木村 和恵(ちちぶまちづくり工房)

定 員 見学会50名、シンポジウム80名
 参加費 会員1,000円、学生500円
 申込み E-mailまたはFAXにて「催し物名称、氏名、勤務先、同電話、FAX」を明記してお申し込み下さい。

リレー見学会・シンポジウム申込先
 (社)日本建築学会関東支部 野口・山崎
 TEL03-3456-2050 FAX03-3456-2058
 E-mail: noguchi@aij.or.jp

----- 切り取り線 -----

関東支部提案競技「美しくまちをつくる、むらをつくる」申込書

代 表 者	フリガナ	種 別	会 員	自 宅	〒
	氏 名	番 号	No		〒
	所属 (勤務先/部課、学校、学部学科、学年)				勤務先
共 同 制 作 者	フリガナ			自 宅	〒
	氏 名				〒
	所属 (勤務先/部課、学校、学部学科、学年)				勤務先

*代表者は本会個人会員で関東支部に属していること。共同制作者が複数の場合は別紙に記入して下さい。